

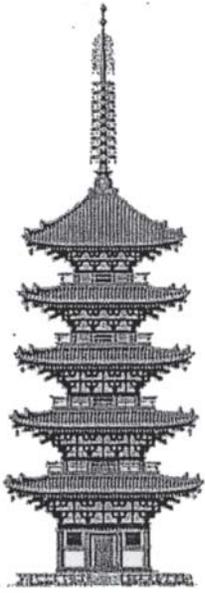
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。夏本番の七月。くれぐれもご自愛ください。**最澄、空海後の仏教**がテーマの今年のかかわら版。今月は**日蓮の日蓮宗**についてです。

★立正安国論

一二二二年、日蓮は太平洋に面した**安房国**(あわのくに)千葉県安房郡)小湊で生まれました。十二歳の時、地元の名刹、天台宗**清澄寺**に入山。道善房を師として十六歳で得度します。二十一歳になった一二四二年からの約十年間、**比叡山、高野山、四天王寺**などで修行に励み、**法華經**こそが真実の経であるとの確信に至ります。

★法難



日蓮宗の開祖「日蓮上人」

やがて鎌倉**松葉谷**に草庵を結び、近隣の僧俗と法華経を修学。**天台大師智顛**の教えに傾倒します。**一二五七年**、鎌倉で大地震が発生。飢饉と疫病にも見舞われ、人々は絶望に陥りました。**一二六〇年**、仏教經典の全てを収蔵した**大蔵經**を読破した日蓮は、救国を説く**立正安国論**をまとめて幕府に献呈します。

立正安国論では他の宗派を批判し、**(四箇格言)**しかかくげん)、法華経だけが末法の世を救うと説きました。立正安国論を献呈した翌月、草庵が焼き討ちに遭い、**(松葉谷法難)**、翌**一二六一年**、幕府の命で伊豆伊東に配流されます**(伊豆法難)**。

難

赦免されて帰郷した**一二六四年**、松原大路で他宗派の信者に襲撃されます**(小松原法難)**。相次ぐ法難にも日蓮の信念は揺らぎません。**一二六八年**、元の使者が服従を強いる国書を執権**北条時宗**に手交するものの、時宗はこれを無視。日蓮は幕府に対して立正安国論の予言が的中したと指摘し、国をあげて法華経に帰依することを主張。

激怒した幕府は日蓮を捕縛し、鎌倉**龍口**(たつのくち)江ノ島対岸)で打ち首にしようとしたところ、斬首役の刀に落雷。刀が折れて一命をとりとめます**(龍口法難)**。

日蓮は減刑され、佐渡に配流。**一二七一年**、四十九歳の時でした。



龍口法難の図

★元寇

一二七四年(文永十一年)、日蓮は赦免されて信者の**波木井(南部)**実長の領地内の**身延山**に草庵を結びます。同年、元・高麗連合軍が対馬・

壹岐・太宰府に襲来**(文永の役)**。日蓮は人々の無事を祈願。元・高麗軍は偶然の嵐に見舞われて退散します。

身延山**久遠寺**に大坊が完成した**一二八一年(弘安四年)**、再び元・高麗軍が襲来**(弘安の役)**。この時も日蓮は祖国の無事を祈願。またしても偶然の嵐によって元・高麗軍は退散。日蓮五十九歳、入滅する前年のことでした。

★池上本門寺

日蓮は、佐渡配流の間に書いた**開目抄**をはじめ、**撰時抄、報恩抄、観心本尊抄**など、多くの著作や信徒への手紙を残しました。

日蓮の筆跡は**御真蹟(ごしんせき)**として尊ばれ、今日でも厳格に護持されています。

一二八二年、体調を崩した日蓮は、療養のために身延山を下山。武蔵国の信者、**池上宗仲**の館に立ち寄った際に六十歳で入寂。館跡はのちの**池上本門寺**となりました。

★室町仏教

元寇の恩賞への不満などから、やがて鎌倉幕府の御家人は執権(北条家)による**得宗政治**に反発。後醍醐天皇の勅命に呼応した**足利尊氏、新田義貞**らが挙兵し、**一三三三年**、鎌倉幕府は滅亡。南北朝時代を経て室町時代へと至ります。来月は鎌倉仏教から発展した**室町仏教**についてお伝えします。乞ご期待。

